

教育のページ

田辺工業高校(田辺市)

手作りの用具を小学校に

田辺市の田辺工業高校の生徒は、小学生が使える用具を制作して学校に届けている。学校で役立ててもらえるよう、取得した技能検定の技術も生かしながら作っている。

1月中旬には機械科3年生の下平直輝君(18)と松平樹

君(17)が地元の田辺東部小を訪れ、生徒が制作したミニサッカーゴール1セット、グラウンドなどをならす道具6本、ついたて1基を児童会役員に贈った。

ミニサッカーゴールは機械科の課題研究「人の役に立つ

物を作る班」が制作。下平君や松平君ら5人が設計から取り組み、鉄のパイプと板で幅約120センチ、高さは約80センチの2通り使えるように作った。旋盤やフライス盤、高速切断機などを使い、パイプを曲げる時には失敗を繰り返しながら完成させたという。けがのないように角は丸くしている。

下平君は「それぞれ分担して役割をこなし、使いやすいうようにできたと思う」といい、松平君は「人のために使える物ができた。喜んで使ってもらい、来年度も依頼をもらえたら後輩につなげていきたいのでうれしい」と話した。

他の二つは機械科の実習で制作。それぞれ小学生が使うことを考えて工夫した。グラウンドなどをならす道具はアルミを使って軽くし、ついたては移動できるようにキャスターを付けた。

受け取った児童会書記の6年生、澤邊華蓮さん(12)は「時間をかけて作ってくれてうれしい。みんなで大切に遊びや掃除に使いたい」と話した。

2014年度は他にも、市内の芳養小と咲楽小に手作りの用具を贈る。



小学生に手作りの贈り物を手渡す生徒(田辺市南新万で)

学校自費

391

(初山仁美)